

度管理は、今後のわが国のスクリーニング水準の向上のために、極めて重要であり、そのためには、精度管理についての研究の推進が大切である。

## 産婦人科側から見た先天代謝異常症， 先天性甲状腺機能低下症の スクリーニングの実施状況と問題点

東芝中央病院 森山 豊  
社団法人日本母性保護医協会 黒島 淳子  
五味潤政人  
住吉 好雄  
皆川 進

昭和54年1月より12月までのガスリー法等及びクレチン症のスクリーニングの実施状況患児数、助産所分娩の採血について全国47支部について調査し問題点について検討した。

### 1. 検査実施件数

昭和54年1月より12月までの検査実施件数は、1,445,488人の新生児について実施している（表1参照）。

### 2. 検査実施率

昭和53年の全国平均の79.4%より向上し、最高は熊本の112.9%、最低は奈良の63.4%で昭和54年の全国平均実施率は91.5%である。

### 3. 患児数

ヒスチジン血症が201名と最も多く、フェニルケトン尿症26名、ガラクトース血症12名、ホモシスチン尿症7名、メープルシロップ尿症、高メチオニン血症各1名、クレチン症16名の計264名が発見されている（表2参照）。

### 4. 助産所分娩の採血

採血実施支部は計24支部であった（表3参照）。

### 5. クレチン症スクリーニング

昭和55年7月現在、実施36支部、10月からの予定4支部、未定7支部で、測定方法についてはTSHのみ28支部と最も多く、検査センターは、ガスリー法と同所23支部、異所17支部であった（表4参

照)。

6. 問題点

今回の調査により全国実施率は91.4%と高率を示しているが、より実施率の向上を計るには未実施施設への対策、助産所分娩での採血実施率の向上などが課題であり、クレチン症のスクリーニングの開始により患児数の増加とそのフォローアップが必要で、より正確な患児数の把握には各検査センター間の連絡及び再採血に応じない児の対策などの解決が必要である。

表1

検査実施件数（受診者数）(1)

(昭和54年1月～12月)

支 部	検 査 数	出 生 児 数	実 施 率 (%)
北 海 道	77,074	77,751	99.1
青 森	18,651	22,336	83.5
岩 手	19,515	20,060	97.2
宮 城	28,855	32,495	88.7
秋 田	15,171	16,902	89.7
山 形	18,292	17,249	106.0
福 島	30,059	30,418	98.8
茨 城	28,988	37,505	77.2
栃 木	21,583	27,639	78.0
群 馬	23,775	26,530	89.6
埼 玉	55,269	85,046	64.9
千 葉	50,089	63,235	79.2
東 京	126,143	148,545	84.9
神 奈 川	78,984	89,617	88.1
山 梨	10,340	10,504	98.4
長 野	28,315	30,385	93.1
静 岡	35,034	50,269	69.6
新 潟	35,523	34,239	103.7
富 山	13,300	15,598	85.2
石 川	16,356	16,668	98.1
福 井	11,167	10,887	102.5
岐 阜	25,583	27,340	93.5
愛 知	84,414	91,110	92.6
三 重	20,467	21,786	93.9

検査実施件数（受診者数）(2)

(昭和54年1月～12月)

支 部	検 査 数	出 生 児 数	実 施 率 (%)
滋 賀	14,185	15,884	89.3
京 都	30,104	37,572	80.1
大 阪	95,280	115,990	82.1
兵 庫	50,492	53,558	94.2
奈 良	10,062	15,869	63.4
和 歌 山	10,932	13,667	79.9
鳥 取	9,202	9,350	98.4
島 根	10,997	10,136	108.4
岡 山	25,697	24,661	104.2
広 島	37,843	37,741	100.2
山 口	19,802	22,590	87.6
徳 島	10,231	10,722	95.4
香 川	13,518	13,477	100.3
愛 媛	21,393	22,320	95.8
高 知	10,601	10,687	99.1
福 岡	28,868	34,341	84.0
佐 賀	12,173	12,754	95.4
長 崎	24,802	25,964	95.5
熊 本	28,224	24,990	112.9
大 分	16,421	16,969	96.7
宮 崎	14,537	17,731	81.9
鹿 児 島	25,463	25,079	101.5
沖 縄	20,804	20,497	101.4
合 計	1,445,448	1,596,663	(平均)91.5%

表 2

## 患 児 数

(日母：47支部集計)

病 名	昭和52年 4～12月	昭和53年 1～12月	昭和54年 1～12月	昭和52.4 ～54. 12
フェニールケトン尿症	7	20	26	53
メープルシロップ尿症	0	4	1	5
ヒスチジン血症	20	122	201	343
ホモシスチン尿症	0	6	7	13
ガラクトース血症	1	7	12	20
高メチオニン血症	5	5	1	11
チロジン血症	0	2	0	2
クレチン症	2	5	16	23
高フェニールアラニン血症	0	1	0	1
計	35	172	264	471

表 3

## クレチン症スクリーニングに関して

I. 実施地区	:	36	支部
予定	:	4	"
不明	:	7	"
(未定)			

II. 測定方法			
T <sub>4</sub>	:	0	支部
TSH	:	28	"
TSH, 又は, T <sub>4</sub>	:	8	"
TSH, T <sub>4</sub> ; T <sub>3</sub>	:	2	"

III. 検査センター			
ガスリー法と同所	:	23	支部
異所	:	17	"

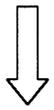
表 4

## 助産所分娩の採血

嘱託医 が行う	産科医 小児科医	12	支部
		1	"
最寄りの医師が行う		9	"
採血していない		5	"
助産婦が行う		2	"
不 明		16	"
な し		2	"



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 54 年 1 月より 12 月までのガスリー法等及びクレチン症のスクリーニングの実施状況  
患児数,助産所分娩の採血について全国 47 支部について調査し問題点について検討した。